

第2章 立地の適正化により解決すべき課題

1 美祢市の概況

1.1 地勢

本市は、山口県の西部のほぼ中央に位置し、面積472.64 km²で、西は下関市、北は長門市、萩市、東は山口市、南は宇部市、山陽小野田市に接している。本市の地形は、北側と東側は中国山地にかかり標高が高くなっており、秋芳地域には日本最大級のカルスト台地「秋吉台」と大鍾乳洞「秋芳洞」を有している。

平成20（2008）年3月21日に美祢市、秋芳町、美東町の1市2町が合併し、現在の美祢市が誕生した。

美祢地域の特徴

本市の中心的な市街地を形成する地域

秋芳地域の特徴

日本最大級のカルスト台地である秋吉台を有し、農業と観光を基幹産業とする地域

美東地域の特徴

農業を中心とする地域



図 2-1 本市の地域

出典：美祢市都市計画マスタープラン

1.2 美祢市の都市計画の概要

上位計画である美祢市都市計画マスタープランにおいては、今後の都市づくりを展開していくための基本的な枠組みとして、将来都市構造を設定している。

本市の将来都市構造は、長期的な高齢化の進行等を念頭に置き、将来にわたって誰もが住みたいと思う、便利な都市機能が集約され、ネットワークされた「集約型都市構造」を目指すもので、美祢地域の市役所周辺に都市拠点、秋芳地域、美東地域の総合支所周辺に地域拠点を設定している。

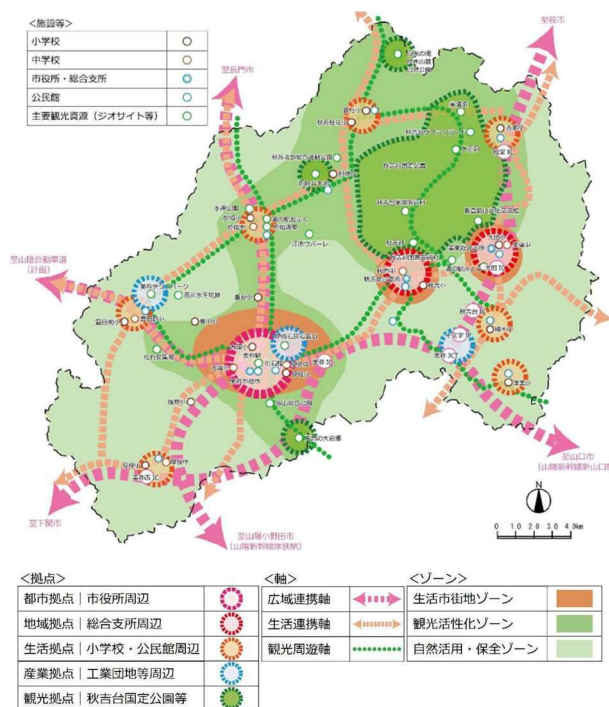


図 2-2 将来都市構造

出典：美祢市都市計画マスタープラン

2 立地の適正化により解決すべき課題

課題1 人口集積の維持、都市の持続性向上

本市の総人口は減少傾向にあり、美祢地域、秋芳地域、美東地域の3地域ともに、今後も減少することが予測されている。高齢化率は令和2(2020)年時点で3地域ともに約40%~50%となり、急激に高齢化率が上昇している。

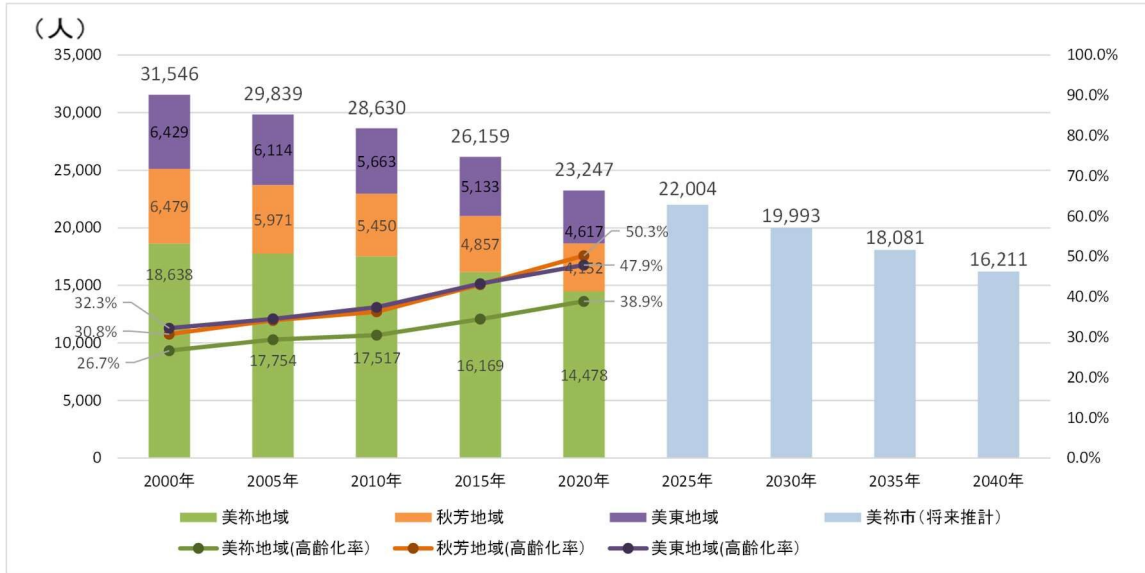


図 2-3 地域別人口・高齢化率の推移

出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所 推計

令和2(2020)年から令和22(2040)年の人口増減分布をみると、用途地域内の人口減少が顕著になる一方、郊外で人口が増加するメッシュが存在する推計となっている。人口が低密度に広く分散すると、地域の中心的役割を担う都市拠点・地域拠点においても生活サービスが低下する懸念があることから、都市拠点・地域拠点の拠点性の向上や居住環境の整備を推進し、人口集積を維持することで、引き続き生活サービス施設の立地を確保していくことが必要である。

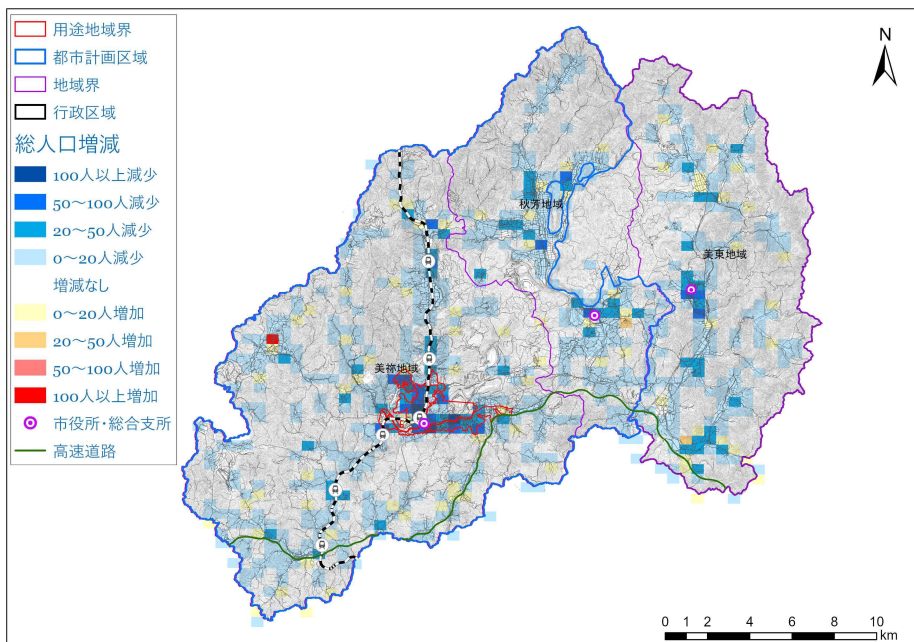


図 2-4 総人口の人口増減分布図(2020年~2040年)

出典：国勢調査(2020年)、国土数値情報(将来推計人口)

本市の空き家数は平成 29 (2017) 年時点で 1,337 件となっており、分布状況を見ると、美祢地域内に多く分布し、用途地域内にも多数みられる。都市拠点、地域拠点において賑わいを創出し、まちの魅力や活力を向上させるためには、既存ストックである空き家や低未利用土地の利活用を推進することが必要である。

また、美祢地域、秋芳地域、美東地域にはそれぞれ異なる歴史・文化・自然・産業等に係る地域資源が存在している。これらの地域資源を始めとした地域の特性をまちの魅力として拠点形成に活かすことにより、地域活力の維持・回復に取り組むことが求められる。

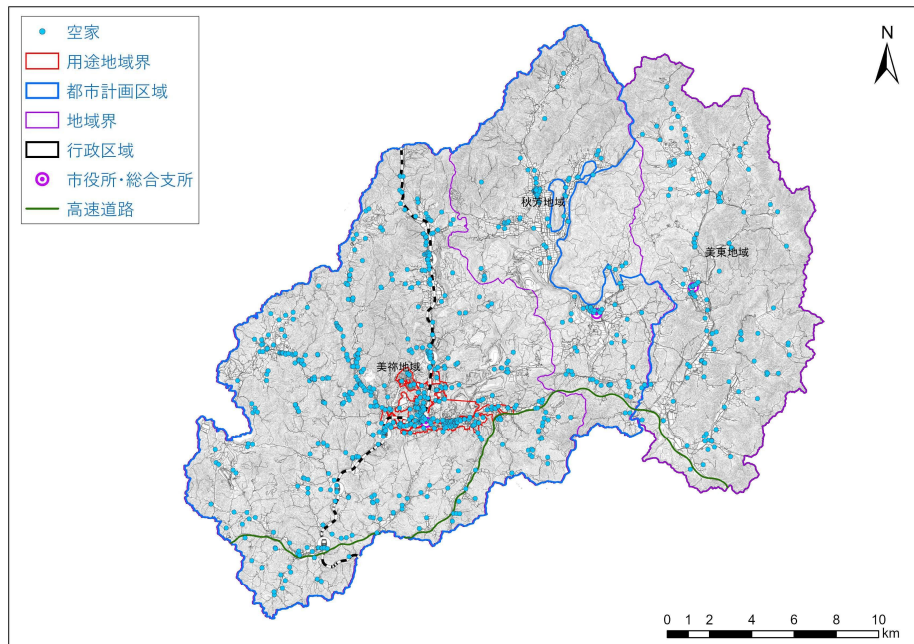


図 2-5 空き家分布図

出典：空き家等実態調査 (2017 年度)

合併して誕生した本市は、合併前の市町単位の施設を含め、約 400 の公共施設を有している。昭和 56 (1981) 年以前に建てられた旧耐震基準の施設が約 8.9 万㎡ (全体の 34.9%) となっており、施設の老朽化・耐震化への対策が必要な施設が多くみられる。現在保有しているハコモノ施設のすべてをそのまま更新、保全とした場合、これまでにかけた費用と比較しても多額の更新費用が必要となることから、財政の持続性の観点から、公共施設の統廃合・複合化による再配置や長寿命化の推進が必要である。

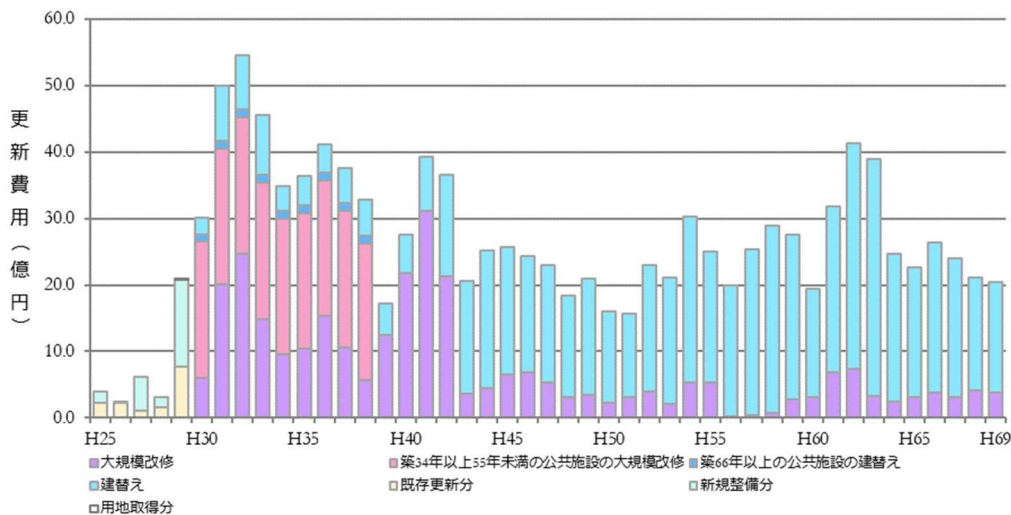


図 2-6 公共建築物 (ハコモノ) の更新費用

出典：公共施設等総合管理計画基本方針 (2019 年 3 月)

課題2 公共交通ネットワークの確保・維持

通勤・通学の利用交通手段は、自動車の割合が約71.1%と最も高く、山口県平均の約70.7%を上回っている。鉄道駅別乗降客数では市内6駅で微減傾向にあり、路線バス利用者数も減少している路線がある。

自動車を運転して移動することが難しい高齢者や学生等の若者の移動手段の確保をはじめとして、利用者ニーズを踏まえながら、公共交通の利便性の向上を推進し、公共交通の利用促進を図ることが必要である。また、各拠点の都市機能の役割分担の観点からも、都市拠点と地域拠点、また地域拠点同士のアクセス性を高める公共交通ネットワークの確保・維持が求められている。

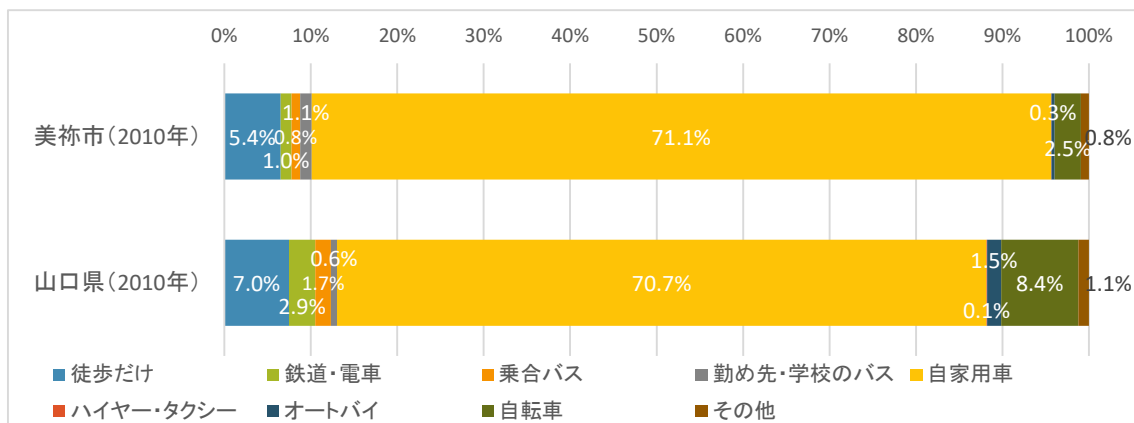


図 2-7 通勤・通学の利用交通手段分担率

出典：国勢調査（2010年）

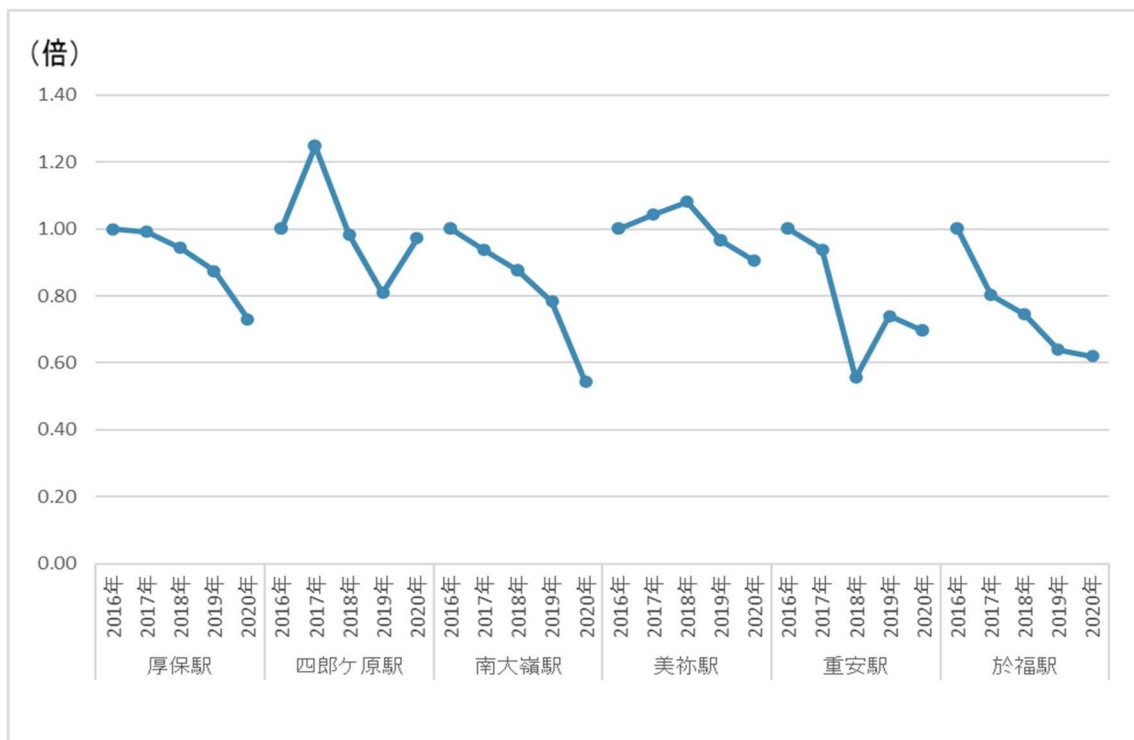


図 2-8 駅別利用者数の推移（2016年を1.00とした割合）

出典：美祿市統計書（2021年8月）

課題3 災害による危険性の低減

本市の3地域すべてにおいて、市役所、総合支所が洪水浸水想定区域に含まれ、人口が比較的多い場所も含まれている。

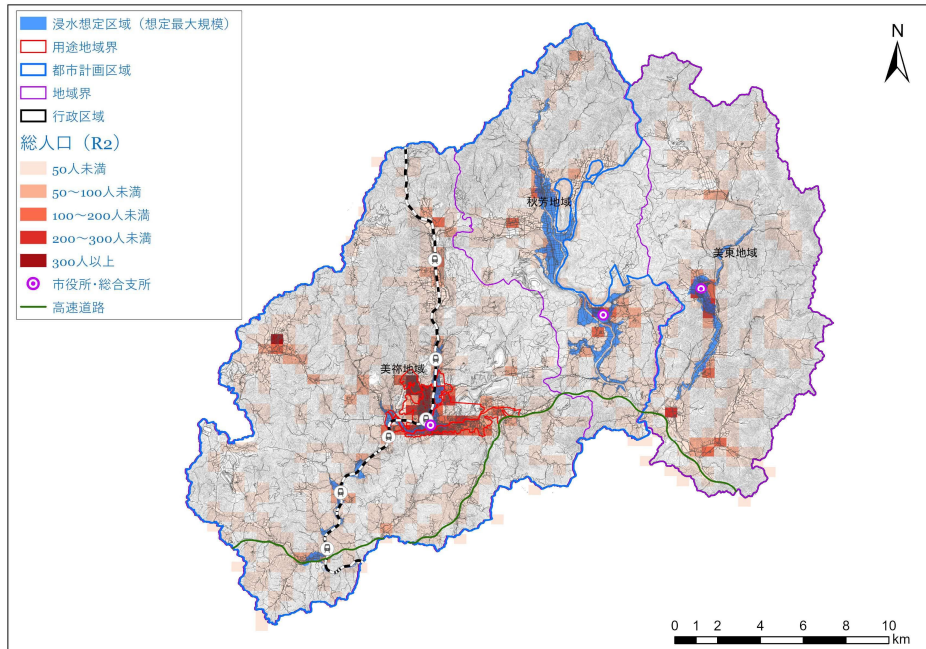


図 2-9 洪水浸水想定区域と人口分布

出典：美祢市資料、国勢調査（2020年）、国土数値情報

土砂災害警戒区域は、本市全域に分布しており、人口分布との重なりをみると、用途地域や比較的人口の多い地域も含まれる。安全・安心に暮らし続けられる居住環境を形成するためには、災害リスクの低い地域に居住を誘導するとともに、災害リスクの高い地域において災害対策を推進することが必要である。

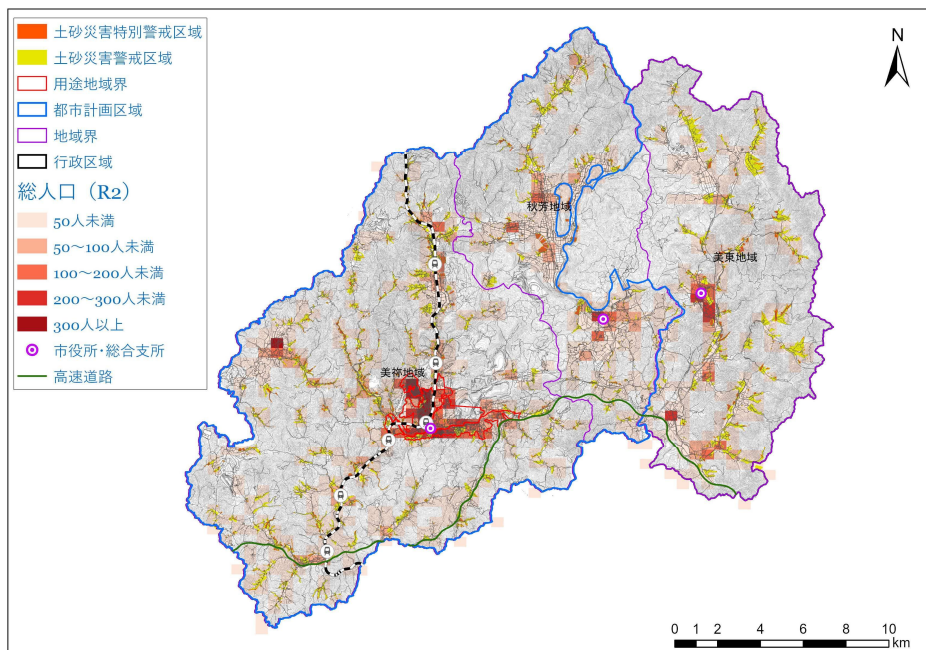


図 2-10 土砂災害警戒区域・特別警戒区域と人口分布

出典：美祢市資料、国勢調査（2020年）、国土数値情報

3 地域別の課題を踏まえた美祢市全体のまちづくりの考え方

美祢市立地適正化計画では、都市計画区域外も含めた本市全域を計画区域とし、多極が連携する集約型都市構造を目指すため、美祢地域、秋芳地域、美東地域の3地域別の課題も整理したうえで、本市全体のまちづくりの考え方を示す。

美祢地域の課題

- 本市の過半数の人口を有するが、今後の人口減少・高齢化の進行による人口密度の低下に対応するため、用途地域内に多く存在している空き家や低未利用土地の活用、鉱業や観光等の産業の振興、将来的にもある程度の人口集積が維持される市役所周辺への生活サービスの集約等、本市の中心として人口集積や都市機能を維持していくための方策が必要
- 市内外の移動手段となる鉄道やバス等の公共交通は、必要な人が利用しやすく、また交流を生む装置として効果的に利用されるための方策が必要
- 浸水や土砂災害のリスクの高いエリアにおける安全確保策が必要

秋芳地域の課題

- 今後の人口減少・高齢化の進行による人口密度の低下に対応するため、秋芳洞・秋吉台等の市を代表する観光産業や農業の振興、支所周辺の空き家や低未利用土地の活用、将来的にも一定程度の人口集積が維持される支所周辺への生活サービスの集約等、本市の観光産業を牽引する地域として、交流人口を維持・拡大するための方策が必要
- 来街者に加え、公共交通の利便性の低いエリアの居住者や高齢者、学生等の移動手段を確保するための方策が必要
- 支所周辺や嘉万等の特に浸水リスクの高いエリアや、その他の災害リスクの高いエリアにおける安全確保策が必要

美東地域の課題

- 今後の人口減少・高齢化の進行による人口密度の低下に対応するため、観光・農業・林業等の産業振興、支所周辺の空き家や低未利用土地の活用、将来的にも一定程度の人口集積が維持される支所周辺への生活サービスの集約等、東部の近隣自治体との交流を牽引する地域として、交通アクセス性の高さを活かした、まちの活性化のための方策が必要
- 公共交通の利便性の低いエリアの居住者や高齢者、学生等の移動手段を確保するための方策が必要
- 3地域のなかでも特に人口分布と広く重なっている、土砂災害のリスクの高いエリアや、その他の災害リスクの高いエリアにおける安全確保策が必要

美祢地域、秋芳地域、美東地域のいずれも、人口減少・高齢化の進行が予測され、また交通、経済、防災等各分野の課題を有する。これらの課題に対応するためには、生活サービス施設の集積状況や特有の産業、自然・歴史・文化資源といった地域の持ち味を活かし、3つの地域が協力して対策を講じていくことが必要である。

そのため、本市では3つの地域に役割を設け、地域ごとに中心となる拠点を形成し、居住や生活サービス施設をある程度集約し利便性を確保しながら、3地域の連携を強化することで、本市全体としてコンパクトで持続性のあるまちづくりを進める。

都市計画マスタープランにおける都市拠点、地域拠点の位置づけも踏まえながら、美祢市立地適正化計画における各地域の役割を設定した。



美祢地域が担う役割	秋芳地域が担う役割	美東地域が担う役割
都市活動の中核を担う 美祢市の中心	美祢市の観光の玄関口	美祢市東部の圏域間交流の ゲートウェイ

図 2-11 美祢市立地適正化計画において3つの地域が担う役割